

① 経営体の概要

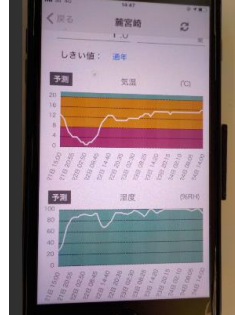
- 所在地:宮崎県えびの市
- 実施主体名:えびの産米特A産地化プロジェクト
- 栽培作物:水稲
- 構成員:JAえびの市稲作振興会生産者12名、
JAえびの市(事務局)、えびの市、宮崎県

② 導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 水田センサー:NTTドコモ(PaddyWatch)
(水稲向け水管理支援システム)



ドコモHPより



③ 導入の経緯

- 更なるえびの産米のブランド確立を目指し、栽培技術の見直しや、生育期間中の地域の気温や水田の水温データの見える化と、細やかな水管理を実施するため、平成29年にJAえびの市が水田センサー6台を導入。

④ 導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし

⑤ 導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 圃場の気温や水温がスマートフォンでリアルタイムに確認・蓄積できるので、生産者に対し、根拠データを示せるようになり、収穫適期などの営農指導が的確に行えるようになった。
- 従来の試験項目に、深水管理と浅水管理の生育差による品質等への影響調査を行う試験栽培を加えることができた。

令和2年の水田センサーの活用例

【平成30年】適期(10月20日頃)の収穫済面積割合:約50%



地点ごとの登熟期の積算気温データ等を生産者に提示し、収穫適期を指導

【令和2年】適期(10月10日頃)の収穫済面積割合:約65%



収穫遅れによる茶米(粒表面の褐変)が減少し、品質と食味が向上!

⑥ 導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- コスト面(1台10万円)から、メンバー全員への導入が困難。
- データの分析・解析に要する作業時間の短縮。
- 給水栓の自動開閉装置など、他のICT技術との連携による相乗効果に期待したい。
- 消費者や卸業者などへの情報発信ツールとしても展開・活用できるように、技術やデータを蓄積・分析し、更なる品質向上に努めていきたい。